



## Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通じた「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度のコロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

### カテゴリ：

心構え・マインドセット

開催日時：2020年3月25日

### 講師：

株式会社 MAIA 代表取締役社長  
Cheers 株式会社 代表取締役社長  
RPA テクノロジーズ株式会社  
DX ラーニング事業部長  
月田 有香氏



関西学院大学文学部卒業後、アビコムコンサルティング入社。

2007年に脱サラし、ミュージカル俳優に転身し舞台やテレビに出演。

演劇を活用した人材育成を実現の為に2010年 Numenia 合同会社(現 Cheers 株式会社)を設立。

2017年女性活躍支援のために、女性へのテクノロジー教育と働き方を推進する株式会社 MAIA を設立。

## テレワークはコミュニケーション設計が命！

### 教育・エンジニアリング・自治体におけるテレワーク実践事例

パソコンでの業務作業を自動化するソフトウェアロボット、RPA (Robotic Process Automation) が、生産性向上を目指す企業に急速に普及する中、その開発スキルを持つ人材が求められています。eラーニングでRPAのスキルを持つ人材を輩出し、さらにそうしたRPA認定資格者が、在宅ワーカーとして活躍できる場を創るMAIAの仕組みが注目されています。

MAIAは「人とテクノロジーを教育で繋ぎ、社会への貢献と新しい価値観を創出すること」をミッションとする企業です。子育てや介護と仕事の両立、柔軟な働き方がしやすい環境整備、そして生産性向上といった社会のニーズを背景に、同社では2018年5月「RPA女子プロジェクト」をスタートします。

RPAはオフィスでのデータ入力や集計、メール送付といった定型業務を自動化する仕組みです。働きたいと思いつつながら、子育て中などでテレワークを希望するケースを想定して受講生を女性に限定した同プロジェクトでは、RPAスキルを完全オンラインで学べる「IT初心者からイチ」というコンセプトで設計(月田氏)した教育プログラムを用意しました。最終的な認定試験に合格後は、在宅ワーカーとして活躍することも可能です。

こうした仕組みはメディアで紹介されたことがきっかけで、RPAの認定資格取得を目指した受講生は1年後には1714人に上り、960人がRPA認定資格を取得、うち約60%に雇用を創出することができました。

全国、そして海外からも受講されているこの教育プログラムには、テキストや動画といったコンテンツ学習に加えて、受講生同士がチャットで励まし合ったり、相談したりしながら学べる共同学習の仕組みがあります。同社では、こうした受講生や先輩RPA女子などがコミュニケーションできる状態を「コミュニティー・ラーニング」と名付けました。

「全員に入ってもらおうチャットツールでは、雑談や様々な質問のためのチャンネルをそれぞれ作りました。コミュニティー・ラーニングで先輩にあたるサポーターの女性が受講生の質問に答えることで、課題の完了率がアップしました」(月田氏)

# Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

事例①教育 テレワーク設計

プロジェクト運営(MAIA) 受講生 リポーター リーダー 事務局

チャットツール 全体コミュニケーション	質疑応答・雑談・運営管理
共有フォルダ OJTロボの格納場所	ロボットデータ・評価
仮想開発環境 リモートデスクトップ	MacのPCのみ
LMS コンテンツ学習	テキスト&動画

13

このような「コミュニティ・ラーニング」の中で生まれた受講生とサポーターの交流に加え、さらに経験の長いリーダーや同社の事務局を含めたタテの関係は、RPA 女子総勢 300 人以上が、完全リモートで参加したロボット開発の試みでも生きたといいます。多様な基幹システムと連携するロボットパーツを大人数で作るこの開発では、エンジニアリングのテレワーク設計において、教育の段階で全体コミュニケーションに使用していたチャットツールに加え、進捗管理システムを適用しました。。すると受講生と先輩たちとのコミュニケーションと同様に、設計者、開発者、テスターそれぞれの作業が、全体の何パーセントぐらいまで進んでいるのかをウェブ上で見て、協力し合いながら進めることができたそうです。また 3 月から 12 月までの間、数回に分けて計 1300 体のロボットを作ったこの試みを振り返ると、特に後半以降の

開発がスムーズに進みました。その理由は「一つの開発が終了した時点で評価をして、問題の改善を繰り返す」(月田氏)という施策を打ったからだったといいます。

「開発スキルが不足している、プロジェクトの開発ルールがない、進捗状況が把握しづらいなどの課題に対応した結果、大量のテレワーカーによる開発は、ルールの明確化、進捗管理、そしてコミュニケーションが必須だと考えました」(月田氏)

同社ではこうした開発の仕組みを「コミュニティ・エンジニアリング」と名付けてテレワークを全体設計することで、テレワーカー全員が納期までに納品してくという気持ちを醸成しながら、ミッションを実行できたといいます。

また新型コロナウイルスによる感染拡大でイベントが自粛される中、3月5日にオンサイトとウェブの両方で開催予定だった「RPA 女子 AWARD2020」は、Microsoft Teams を使ったウェブ上でのセミナーであるウェビナーで実施しました。チャットにはお祝いの言葉が溢れるなど、非常に盛り上がったといいます。「ウェビナーはどこからでも参加でき、またチャットツールも使える一方的ではないコミュニケーションです。オンサイトに加えて実施するなど、より可能性が広がる仕組みだと思えます」(月田氏)

さらに MAIA では地方自治体でもテレワーカーの育成と企業のマッチングに取り組んでいます。たとえば山形県酒田市で進んでいる地元のテレワーカーの育成と雇用の創出では、デジタルイノベーションを担う女性がリーダーシップを取って、地元企業で活躍する体制を目指しています。沖縄でも地元企業を中心となったプロジェクトに、RPA 教育コンテンツを提供するなどの取り組みをしています。テレワークというと、通勤ラッシュ緩和など首都圏で実施するものというイメージもあるかもしれませんが、このようにテクノロジーを活用することで先進的な取り組みを進める地方自治体が増えているといいます。

「都心でも地方でも、テレワーク導入のコツは、できることから。ソフトウェア開発などといった実施しやすい業務から始めて、その業務に合った使いやすいクラウドサービスを利用することです」(月田氏)

テクノロジーの活用したコミュニケーションを可能にした月田氏の事例からは、自由な働き方で生まれる新しい雇用と価値観が、地方自治体を含めて社会全体に広がっていることを実感できます。

## テレワークを導入するコツ

●テレワークを始めるコツは「できることから」「使いやすいクラウドサービスを利用」することです。

業務を選ぶ	定型的・計画的な業務	不定型・セキュアな業務	場所の制約がある業務
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 営業や経理の事務</li> <li>● 顧客問合せ対応</li> <li>● ソフトウェア開発</li> </ul> <p>やりやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重要な戦略会議</li> <li>● プレインストーミング</li> <li>● 機密性の高い情報操作</li> </ul> <p>難易度高い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の製造や制作</li> <li>● 接客が必須の業務</li> </ul> <p>そもそも無理</p>	
<p>ここから始める</p> <p>業務に合ったクラウドツールの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニケーションが中心であれば ⇒ チャット系ツール</li> <li>● 資料やドキュメントの共有が必要であれば ⇒ ストレージ系ツール</li> <li>● 課題管理や進捗管理を行いたいのであれば ⇒ プロジェクト・タスク管理系ツール</li> <li>● 営業や会計情報も一元化したいのであれば ⇒ 業務系ツール</li> </ul> <p>クラウドの発展により、セキュリティも高く安価に使えるツールが増えています</p>			

33